



宮司プレス 第十九号

彦島八幡宮 宮司 ニュース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成十九年十二月十二日

宮司の柴田です。

深まりゆく秋を感じたのもつかの間、境内に吹く風に容赦なく体温を奪われます。いよいよ本格的な冬の訪れです。この関門地方は全国有数の風の強い街だそうで、体感温度はかなり低いようです。今年、インフルエンザが大流行のきざしだそうで、私ものを酷使する生業（なりわい）ですので、過日家族揃って予防接種をすませました。

「手洗い」「うがい」の励行が、かなり予防になるそうです。実は私も神主は、拜殿（はいでん）やその奥の幣殿（へいでん）・祝詞殿（のりとでん）に上がる時には、必ずお手水（てみず）をします。まず、両手に水を注ぎ、次に口を濯（そそ）ぎ、もう一度手に水を注ぎます。お手水は、海や川や滝に打たれる本来の禊（みそぎ）の略された姿なのです。本当に大事なお祭りには、潔斎（けっさい）をして奉仕をしなければなりません。神様に対して身を清め、神様の宿る清らかな心になる為にですね。今のように

文明が進歩していない頃、病気や怪我は「ツミ」「ケガレ」から起こると考えられていました。「ツミ」は神様に自分の心を包み隠す事、「ケガレ」は、神様から頂いた正しい気が枯れる事なのです。私も、宮司に就任して三回目の迎春であります。が、気持ち枯れないように「手洗い」「うがい」、お手水が心掛け、ぬかりなく、新年の祭典行事を御奉仕申し上げなければと決意を新たにしている昨今です。

十二月は「師走（しわす）」です！ 十二月は、一年の終わりでみんな忙しく師匠といえども趨走（すうそう）、ちょこちょこ走る意味（すゝ）するので「師趨（しすう）」となり、転じて師走となったのが一般的です。また、師走の師は法師を意味し、年末にお坊さんを家に招きお経を読んで頂く風習があったことから、師が馳（は）せ走る「師馳月（しはせつき）」であり、これが略されたものであるという説もあります。いずれにせよあわただしい年の瀬なのでありますね。年越しは大晦日から元旦までの間で、年越

しの境目が除夜（じょや）となります。そして、その大晦日の晩に家族揃ってそばを食べながら年を越す習慣が、「年越しそば」であります。そば粉で作った麺は、「そば切り」といったのですが、一年の終わりに「そば切り」を食べながら、きりよく一年を締めて新年を迎える、清々しい風習です。そばが長く伸びる事から、家運や寿命が長い事を祈り、そばが五臓のケガレを取るといって無病息災を祈って食べたのです。

この一年、次から次に発覚した「食平偽装」の問題、やはり「命」の原点は「食べ物」であり、「食べ物」に無関心ではいけない事を考えさせられました。「食べ物」は、全て神様からの「たまわりもの」「賜（たま）いもの」と感謝の心を忘れなかった、「年越し蕎麦」にもみられるような、御先祖様の食文化を見直す必要がありますね。

宮司就任一年を期して発行を始めた宮司プレスも数を重ねて、十九号となりました。数多くの人に支えられ、当宮の護持運営がなされていきます。心から感謝申し上げますと共に、浅学非才、途上の身ですが、更に努力申し上げます。宜しくお導き下さい。来年は平成二十年、天皇陛下が御即位になり、二十年という節目の佳節、大神様の御加護により清々しい新年をお迎え下さいませ。

十一月～十二月上旬の祭典行事報告

明治祭 *十一月三日

龍宮神社例祭 *十一月三日

*弟子待町の小高い山にある神社



福浦金刀比羅宮月次祭

*十一月十日

しおかぜの里保育園参拝

*十一月十五日

掃海艇ひこしま参拝

*十一月十七日

廃艦の報告と感謝の参拝 参拝
後に境内の清掃奉仕作業



新嘗祭齋行 *十一月二十三日

終了後 総代会開催

献菊 *十一月六日

老町の長崎氏



朝粥会 *十一月二十一日早朝

十五名参加

大注連縄おろし *十二月二日



祈漁祭 *十二月三日

十二月上旬以降の祭典行事予定

お札・曆の配布 *十二月七日

福浦金刀比羅宮注連縄祭

*十二月十六日

朝粥会 *十二月二十一日 早朝

どなたでも参加できます、祈願祭

の後、宮司講話、お粥を食します

天長祭 正月臨時巫女説明会

*十二月二十三日

田の首八幡宮注連縄祭

*十二月二十四日

大袈式、除夜祭

*十二月三十一日

十二月の宮司の予定(報告も含む)

秋吉八幡宮(秋芳町)新嘗祭にて講演

*十二月一日

迫町臨時組合長会議出席

*十二月四日

下関青年神職会年末総会*十二月三日

本年をもって青年神職会を卒業

(満四十五歳まで)

山口県神社庁下関支部幹事会

*十二月五日

迫町自治会研修旅行

*十二月八日～九日

当宮維蘇志会忘年会

*十二月十二日

宮崎家(実家)祖母十年祭奉仕の為帰郷

*十二月十六日

西中国信用金庫経友会西山支部忘年会

*十二月二十一日